

CTIC ニュース

Catholic Tokyo International Center

No.64

December 2008

カトリック東京国際センター (CTIC) 事務局 〒141-0021 東京都品川区上大崎 4-6-22 目黒教会内 Tel 03-5759-1061



ブラジル人学校にて
2008/10/14 Toyota Aichi

安らぎのある教会を

今年、CTICが開設されてから18年目になります。この18年は主にバブル期に來日した外国人と共に歩んできた歲月でした。時代の流れは社会状況やその中で生きてきた外国人の状況を大きく変えてきました。CTICに寄せられた相談のうちに時代を読み取ることが出来ます。バブル期とその崩壊期の相談は、解雇、賃金未払い、労災、ビザ、出産、疾病などビザを持たない人たちからの相談が大半でしたが、定住化が進んだ今、移住者の置かれている状況は、更に過酷になっているように思えます。離婚、生活保護、子育て、DVなど生活上の様々な問題だけでなく、精神・神経障害を患う人たちの増加が顕著になっているからです。ある外国人の共同体では、中心メンバー10人のうち4人が抗うつ剤を服用していると聞いています。うつ病で苦しみながらも教会に来ているのは、社会の中で教会が誰にとっても安らぎのある場であることを願ってやみません。

CTIC事務局長 大原 猛

<http://www.ctic.jp>

移住者の子どもたち

～難民移住移動者委員会・全国研修会～

目黒事務所 有川憲治

2008年10月13日～15日の3日間、日本カトリック難民移住移動者委員会の全国研修会が名古屋の南山学園研修センターで開催されました。全国から、約70名の参加がありました。

外国人の子どもたちの教育問題は、社会問題になりつつあります。今回の研修会では、特に、在日ブラジル人の子どもたちの教育問題について考えました。

まず、南米からの子どもたちに関わっている三重大学大学院生の日系ペルー人カルロスさんから、様々な事情で学校に行かなくなる子どもたちの現状報告がありました。「学校に行きづらくなるきっかけはやはり、日本語能力の不足です。理解できない授業を休むとますますついていけなくなり、中学後半から高校入学直後、不登校になる子どもたちが多くいます」「学校の問題もありますが、親の労働環境を改善しないと、この問題は終わらない」と訴えました。

翌日、日本で最初に開校したという、

豊田市にあるブラジル人学校を訪ねました。幼稚園から高校まであり、3歳から18歳までの350人が学んでいました。授業は午前と午後の2部制です。ポルトガル語による少人数制のクラスで、とても自由な雰囲気が印象的でした。卒業後は、ブラジルの大学に進学する生徒も多いとのことでした。

ブラジル人学校は、全国に約100校あります。ブラジル教育省はカリキュラムなどが本国の学校設置基準を満たしている学校を認可校とする制度を2000年から導入し、本国と同等に取り扱うことになりました。これまでに愛知、岐阜、群馬、滋賀などの11県で52校が認可されています。しかし、日本政府からの支援はほとんどなく、経営困難で、廃校する学校も多いとのことでした。

移民社会になりつつある日本において、外国人の子どもたちのために母語での教育も保障された、公立学校での教育サービスが必要になってきたと感じました。



エスコレー・アレグリア・デ・サベール豊田校

《共存から共生へ ～ブラジル人学校の現状から～》提言（案・抜粋）

1 子どもの教育について

外国人の子どもは日本の学校に通う場合と、外国語学校に通う場合がありますが、いずれも問題を抱えています。日本人とともに学ぶ場合は、学習についていけない子どもが多いようです。いじめや差別もあります。外国人学校の場合、卒業後日本の社会に適応するのが困難です。多くは、文部科学省の認可を受けていません。学校の設備も不十分です。このような現状に対して日本の教会はどのような支援ができるでしょうか？

- カトリック学校に協力してもらう（外国人の子どものクラスをつくる。場所・人材を提供する）
- 教会で外国人の子どもの補修をする。宿題を一緒にする。
などの取り組みが考えられます。

ブラジル人学校の現状には、心が痛みます。政府や自治体に対応を訴えるほか、公立学校の運動場の利用、廃校の利用などの道が開けるように協力はできないでしょうか。

2 教会での交流

小教区でも、外国人とともにする取り組みが進んできました。しかし、まだまだ不十分な点もあります。今一度、教会での取り組みを考えて見ましょう。たとえば、

- あいさつ、声掛けからはじめる
- 外国人家庭の家庭訪問
- 教会学校に外国人も参加できるように配慮する
- 外国語ミサに日本人も参加する
- 国による文化の違いを理解する
- 教会学校やキャンプに子どもの参加を呼びかける
- 多国籍の子どもが交流する機会をつくる

ことなどは、基本的なことではないでしょうか。みんなが同じ教会のメンバーであるという考えを持つことが大切です。

3 社会とのかかわり

日本社会は、まだまだ外国人の受け入れになれていません。偏見や差別も依然としてあります。そのような社会のあり方に教会から積極的に働きかける必要があるのではないのでしょうか。政府や自治体にさまざまな問題を訴えることも必要です。また、教会に来ている外国人の方とご近所、地域社会の橋渡しをすることもできるでしょう。

4 情報の共有

教会同士、教会外のNGOなどと情報交換し、協力する必要があります。難民移住移動者委員会でも、ファックスニュースのほか、いろいろな情報を発信していきます。また、研修会などの機会を通して情報を知ること大切です。そして得た情報を分かち合うためにネットワーク作りを考える必要があります。

2008年11月16日 柳本昭（京都教区司祭）

「新しいCTIC」に向けて 引っ越し準備真っ最中

亀戸事務所 大迫こずえ

15年間にわたるCTICの外国人相談・支援活動の拠点となってきた亀戸事務所は、本年末で閉鎖し、来年1月からは目黒教会内の一部に事務所を移し、これまでの目黒事務所、千葉事務所と統合された「新生CTIC」として、相談・支援活動を継続することになりました。

亀戸の「宝物」

下町のほぼ真ん中の亀戸の雑居ビルの中に設けた亀戸事務所は、相談者にも世間にも「開かれた相談事務所」であり続けることに心を向けてきました。

そして、近隣の「労働組合・ユニオン」や「労働安全衛生センター」「児童相談所」「都立病院」「赤ひげ先生の診療所」や「歯医者さん」などの協力を得ながら「相談センター」としての機能を充実させてきました。

東京下町や埼玉、千葉など首都圏の外国人労働者が、自分の抱える問題の解決を求めて相談に訪れるためには、とてもよい場所でした。

教会の外に設けられた事務所ということもあったので、相談に訪れた人の国籍は63カ国にのぼり、その中にはカトリックとは縁のない国の人たちも少なくありませんでした。

この「亀戸」という土地で築き上げた「協力関係」と「あらゆる人のために開かれた雰囲気」はそのまま目黒に持って行く第一の宝です。

もう一つの宝物

亀戸事務所には幼い子供を連れた母親の相談者も大勢います。相談を受けている間、子供たちの相手は、手の空いたスタッフが行います。絵本、ビデオ、積み木や輪投げなどのおもちゃを使って、母親の「不安」、「涙」そして「怒り」に触れさせないようにするのがその目的です。

「この事務所楽しいね。また来るね!」と子供たちが言うのもこれらの小道具あってこそ。目黒での相談活動でも、子供たちの「宝物」はなくせないでしょう。これも一荷物になりそうです。

持って行けない宝物

事務所にスタッフの活動スケジュールを書き込む大きなホワイトボードがあります。それを支える2本の柱には幾つもの文字・数字が書き込まれています。「2000/3/10 あやな」「2005/7/30 まさき」「力也入学式の日」等々。「CTICファミリー」の子供たちが、事務所に来るたびに記した「背比べ」の記録です。残念ですがこの柱を持って行くことはできません。たくさん思い出とともに「写真」で残しておくことにしましょう。

よりよい相談活動のために

今、私たちは、目黒に活動拠点を移すにあたって、亀戸事務所での相談・支援活動の良い点を引き継いで、難しい問題を抱えて相談に訪れる外国人や、教会に集う多くの人たちに、同情したり慰めたりするだけではなく、その人の抱える問題を実際に解決することのできる相談・支援活動を果たしていかなければならない、と決意を新たにしています。

そして、定住する外国人が急速に増えている状況にあわせて、教会の窓口を通して外国人と日本社会とを近づける情報の提供や、外国人の日本社会への適応能力の向上に資する活動を、積極的に推進して行こうと考えています。

どうぞ、今後ともご指導ご支援くださいますようお願い申し上げます。

CTIC ちばの6年半を振り返って

千葉事務所 中村 潔

CTICの3事務所が統合することになり、千葉事務所も今年一杯で閉所します。2002年4月に開所して6年半、少ないスタッフ体制の中、皆様に支えられながら活動して参りました。

教会や外国人共同体の支援活動では、外国語のミサや秘蹟、洗礼などの準備講座、黙想会、カテキストの養成と派遣、外国語の信仰教育教材の作成協力、外国人の子どもたちのキャンプなど、CTICめぐろのスタッフと協力しながら教会や外国人共同体のニーズに応じて活動を展開してきました。

また、外国人の生活相談や支援活動では、ビザや国籍、家族や生活、医療・労働・教育など様々な困難を抱える外国人の相談・支援活動に取り組み、毎年多くの外国人をサポートするに至りました。

他にも他団体とのネットワークを通じて医療相談会やシンポジウム、研修会や講演会、チャリティーコンサート、ワークショップ、サマーキャンプなどを企画・実施してきました。

今、6年半の活動を振り返って感じるのは、外国人に関っている人々との協力関係の大切さです。活動を通じて知り合い、築き上げてきた協力関係がCTICちばの財産となっています。ご協力頂きました各教会関係者をはじめ、千葉地域の関係行政機関や各種専門機関、NPO・NGO団体の皆様には、心から感謝申し上げます。

今後は千葉にCTIC事務所はなくなりま

すが、千葉地域での司牧・相談支援活動は今までどおり継続されます。現在行われている活動のほか、普段、教会の外国人共同体に関っている方々との懇談会や活動連絡集会の実施、支援活動ボランティアの登録、教会での相談活動なども視野に入れ、聖堂共同体との協力、ネットワーク作りを推進したいと考えております。

岡田大司教は、「外国人の司牧と困難を抱える外国人のサポートは教会の大切な努めであり、教会を挙げて行うべきことです。」と述べています。今後も、各宣教協力体・聖堂共同体との関係をより深めながら、信徒の皆さんと共に活動し、多文化共生の教会作りに貢献できればと考えております。今後ともご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



フィリピン司教協議会移住者担当司教様と一緒に

日本人のブラジル移民 100 年記念
エキュメニカル礼拝

～日本・ブラジル交流年を祝って～

目黒事務所 オルメス・ミラニ

10月10日から12日まで、渋谷区神宮前の北青山周辺では、日本人のブラジル移民百周年を祝って日本人とブラジル人のアーティストたちが青山通り各所でボサノヴァとMPB（ブラジリアン現代ポピュラー音楽）を奏でていました。夜にはリオの有名なあがない主キリストの巨大像が辺りを圧倒する摩天楼前面の黒いスクリーンに投影されていました。今年は又、地球の反対側にありながら強い絆で結ばれている二つの国の交流年とされていました。両国の歴史は部分的に似ています。1900年代の初期に日本は経済的に非常に困難な状況にあり、国民の多くの労働者は国外、特にブラジルに働きに出なければならず、主にコーヒー栽培の農園で働くことになりました。今日では彼らの子孫がブラジル社会に統合して国家の発展に貢献しています。

1990年に、日本は非常な経済発展を遂げ、一方ブラジルは深刻な不況と高度の失業率に喘いでいました。この時にあたって日本の政府は、日本人の子孫に、出稼ぎとして産業界に働きに来ることを許可したのです。今日では31万6千人以上の日系ブラジル人が日本で働いています。この人たちは日本に来て、かつての日本からの移民がブラジルで果たしたのと同じように、この国が住みよい国になるような貢献を、携えてきた彼らの働きと文化を通して提供しようとしているのです。

それでもやはり、宗教も又、人々の生活に重要な役割を持っています。人々が一つの大きな家族として集まって来て、それぞれの違いを通して互いに豊かにされる道ともなり得ます。この機会に、プロテスタントの日本基督教団の教

会とカトリック教会がCTICを通じて、エキュメニカル礼拝を、隣接のブラジル大使館の後援で10月19日に原宿教会で催しました。「すべての民よ、主を賛美せよ」との呼びかけで、テーマ「すべての人々にとっての一つの民」のもとに、大勢の人々が共に祈るため、そして日本語とポルトガル語で賛美歌を歌うために来て教会を満たしました。静かな環境で、みんながそのままに自分でいられるスペースと信頼と自由を保ちながら、偏見なしに自発的に一つの共同体のメンバーであるかのように感じました。

このエキュメニカル礼拝は、異なった文化と宗教の人々が調和のうちに共に生きる社会を実現する夢を参加者に抱かせました。

日本ブラジル交流年 移民百年記念
Ano do Intercâmbio Japão-Brasil Comemoração do centenário da Imigração Japonesa no Brasil

第1部 エキュメニカル礼拝
「すべての国民とすべての人々が集まって来る」
Celebração Ecumênica
Construindo o povo de todos
オルメス・ミラニ
Ex Oikos Milani

第2部 ボサノヴァ MPB ライブ
Bossa Nova e MPB ao vivo
Francis Silva / Renato Segurado

主催: 日本基督教団目黒事務所
コソシアキ堂聖歌センター
協賛: 駐日ブラジル大使館
後援: 日本基督教団中央会及び地方協議会
日本基督教団中央会及び地方協議会からの賛助を受けた個人や法人の協賛
協賛: フォーティ

主に向って歌おう
ブラジルの賛美歌
ポルトガル語と日本語
ラテンのリズム
キリストによる世界は一つ
さあ、共にイエスのもとに

Vamos cantar ao Senhor
em línguas do Brasil
-em português e em japonês
ritmo latino
O mundo é unido em Cristo
Vinde ao Jesus juntos

Povos todos, unidos ao Senhor
すべての民よ 主を賛美せよ

2008年10月19日 日
15:00 - 17:00
15:00 - 17:00
ブラジル大使館とセンター 会場は 2-11-53
日本基督教団原宿教会
お問合せ FAX: 03-5481-4363

15:00 - 17:00,
dia 19 de outubro, 2008
na sede da Embaixada do Brasil
Kitayama 2-11-53
Igreja HARAOKUJ,
União de Cristo no Japão
Fone/Fax: 03-5481-4363

原宿教会、聖歌隊事務所は、日本基督教団中央会、地方協議会、個人や法人の協賛を受けています。この機会に、プロテスタントの日本基督教団の教会とカトリック教会が、隣接するブラジル大使館の後援で、10月19日に原宿教会で催しました。テーマ「すべての人々にとっての一つの民」のもとに、大勢の人々が共に祈るため、そして日本語とポルトガル語で賛美歌を歌うために来て教会を満たしました。静かな環境で、みんながそのままに自分でいられるスペースと信頼と自由を保ちながら、偏見なしに自発的に一つの共同体のメンバーであるかのように感じました。

難民のための緊急支援物資のお願い

CTIC では、東京入国管理局（東京都港区）、東日本入国管理センター（茨城県牛久市）を定期的に訪問し、収容されている外国人の面会支援活動を行っています。また、他団体と協力して「難民のためのワンストップサービスセンター」として難民申請者に食料・日用品の提供などを行っています。提供品のほとんどは皆様からご寄付いただいた品物でまかなっており、今年は入管に収容されている方、事務所へ来られた方合わせて、延べ 1,000 人以上に提供することができました。皆様からたくさんのご寄付をいただき感謝申し上げます。

寒い季節になり、事務所には毎日のように冬の衣類や毛布、暖房器具などを求める人が来ますが、ジャンパーや暖房器具は在庫が無くなりました。皆様の自宅で眠っている品等がございましたら CTIC 目黒事務所（担当：中口、真神）までお送りください。ご協力お願い致します。

【男性用（主にLサイズ以上希望）】

- ・冬物衣類（ジャンパー、コート、セーター、ズボン、ジーンズ、手袋、帽子）
- ・上下肌着、靴下（新品） ・靴、スニーカー（できれば 26 cm以上）

【女性用（Lサイズ以上希望）】

- ・冬物衣類（ジャンパー、コート、セーター、手袋、帽子）
- ・上下肌着、靴下（新品） ・靴（革靴、運動靴・ブーツ） ・生理用品

【日用品（通年受け付けています）】

タオル、石鹸、ボディソープ、シャンプー、リンス、歯ブラシ、歯磨き粉、
タオル、洗濯用洗剤

【食料品】

米、塩、砂糖、油、マヨネーズ、コーヒー、その他保存できるもの

【その他】

電気ストーブ、布団、毛布、旅行用かばん、スーツケース、キャリングカート、
便箋、封筒、切手

■文具、ランドセル募集!

来春、CTIC ファミリーの中から二人の女の子が小学校に入学します。元気いっぱいの女の子ですが、二人の家庭は事情があって経済的に余裕のない状況にあります。この子供のために、未使用のランドセル、新しい文具がございましたらご寄付いただけないでしょうか。子供たちにとって入学式が、希望に満ちたものとなりますよう、ご協力をお願いいたします。(CTIC 亀戸事務所 おおさここずえ)



■クリスマス献金のお願い!

さまざまな事の多かった2008年も押し迫り、皆様には、救い主の誕生の喜びと、来るべき新しい年への希望のうちにお過ごしのことと思います。また、東京教区の優先課題の一つである「外国人の司牧と困難にある外国人のサポート」活動につきましては、この1年間、ご理解・ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

CTICの活動については、賛助会会費と一般寄付金で多くの部分をまかなってきましたが、ここ数年、賛助会費・一般寄付金とも減少傾向が続いています。CTICとしても、皆様から寄せられたご好意を有効に使わせていただくよう努力を続けていきますが、この課題への取り組みのため、皆様のよりいっそうのご理解とご協力をお願いします。

(事務局長 大原 猛)

■新事務所体制移行に関するお知らせ

- ・2008年12月10日～2009年1月12日の間、引っ越し作業のため、業務を停止させていただきます。
- ・2008年12月末日をもって、亀戸事務所、千葉事務所を閉鎖させていただきます。
- ・2009年1月13日(火)より、目黒教会内の事務所で業務を開始いたします。住所、電話、ファックスは、現目黒事務所と同じです。

Catholic Tokyo International Center カトリック東京国際センター (CTIC)

【運営委員長】岡田武夫 【事務局長】大原 猛

目黒事務所 - 新事務所として、2009年1月13日より業務開始です。

〒141-0021 東京都品川区上大崎 4-6-22 Tel (03)5759-1061 Fax 5759-1063

亀戸事務所 - 事務所移転のため、2008年12月10日で業務終了になります。

〒136-0071 東京都江東区亀戸 1-21-5 YSビル 5F Tel (03)3636-1981 Fax 3636-1985

千葉事務所 - 事務所移転のため、2008年12月10日で業務終了になります。

〒260-0032 千葉市中央区登戸 1-11-18 第2潮ビル 302号室 Tel (043)238-0187 Fax 238-0188

*賛助会へご協力下さい。(A) 会員 10,000 円 (年間) (B) 会員 5,000 円 (年間)

《郵便振替》00150-5-120640 カトリック東京国際センター賛助会

《銀行振込》みずほ銀行目黒支店(普通)8010313

宗教法人大カトリック東京大司教区カトリック東京国際センター代表役員岡田武夫